

令和6年度 東北歴史博物館中長期目標達成実績(令和7年3月末現在)

東北歴史博物館は、第2期中長期目標(前期)を達成するため下記事項を柱に据え、8つの項目ごとに活動方針を設定し取り組みます。

- 1 暮らしを潤す博物館(豊かな心プロジェクト)
- 2 学び・繋がり・地域に貢献する博物館

1 常設展示・企画展示

コメント							
○ 常設展示等更新ワーキンググループを組織し、展示室のリニューアルについて、目的や概要、事業費、具体的内容等について検討した。また、主務課との具体の協議や先進事例調査も実施した。							
○ テーマ展示や映像展示については、資料の入れ替え解説の更新、新企画の実施、展示ガイドの導入等、館蔵資料の活用推進と展示の充実につなげた。次年度以降も魅力的な常設展を目指し、継続的に取り組む。							
○ 宮城・東北地方の歴史と文化に関わる魅力的な展示の実施に取り組み、満足度の高い展示ができた。準備・運営では、前年度の改善点を踏まえ、展示への興味関心を引き起こす関連企画や積極的な広報活動の実施により、観覧者数で目標を達成した。							
○ 大規模巡回展を複数実施し、多様な世代の来館者の利用を促進できた。また、地元マスコミとの共同企画展の企画制作を進め、他会場での巡回展も含めた準備を進めた。							

活動方針	担当	No.	重点 目標 取組	前期達成目標	実 績	委員 会の 評価	推進委員会の意見
(1) 何度も訪れたくなる 常設展示を目指し ます。	企画	①	○	展示の更新と展示替えを計画的に行います。	○展示リニューアル:ワーキンググループで協議・検討し、短期(1～2年)を「現状の不具合解消(機器の修理・更新等)」、中期(5年)を「多賀城詳細コーナーリニューアル(UD導入・DX化)と総合展示室解説パネル等の更新」、長期をハード面も含めた「全面リニューアルによる大規模改修」として取り組みの方針を定めた。今年度は、短期的な取り組みとして、管理部と連携して、こども歴史館インタラクティブシアター等の不具合を解消させるとともに、一部解説パネル等の更新も行った。また、中期的な取り組みとしては、今後の予算措置に向けて主務課と具体の協議を開始し、先進事例調査も実施した。 ○テーマ展示:館蔵資料の活用推進と企画の更新に務め、新企画「宮城の食」「仙台湾の貝塚」を実施するとともに、現行の企画においても展示資料の入れ替えや解説の更新を行った。また、「宮城の食」では、展示ガイド「ポケット学芸員」を初めて導入した。	3	中期と長期更新について整理し、中期更新に向けた具体の検討及び予備調査に着手した。また、短期更新について随時取り組みながら作業を進めたことは一定の評価ができる。
	管理	②		適宜、総合展示室等の設備の更新を行います。	○総合展示室、古民家、その他常設サービス施設の設備更新について、館内及び主務課との調整を積極的に進め、館内設備の集中更新時期である令和9、10年度に展示室更新を計画し、更新内容についても企画班と調整し、具体化することができた。	3	施設長寿命化対策の全体計画において、リニューアルを見据えたロードマップの修正を行い、館内で共有、確認することができた。今後は設備の更新内容について、より具体的に検討を重ね、実現化に向けて予算等の確保についても調整を図っていく必要がある。
(2) 多様な世代の要望 をとらえ、時宜を得 た魅力的な特別展 を開催します。	企画	③	◎	宮城・東北地方の歴史と文化に関わる特別展を開催します。	○「世界遺産 大シルクロード展」は、シルクロードの交易品が多賀城跡や平泉関連遺跡等からも出土しており、地域の人々の興味関心も高く、かつ、東北各県で積極的な広報活動を実施したことで、新規来館者35%、県外からの来館者は18.6%を占めるなど、新たな客層の開拓につながった。また、アンケートでの満足度は91.4%と高く、リピーターも多く来館し、観覧者数は71,439人と目標(53,000人)を大きく上回った。 ○「和食」展は、夏休み期間中の開催で、地元の料理も紹介するなど身近なテーマの企画であることから、ファミリー層の来館を狙い、県内の小学5・6年生全員へチラシを配布した。また、当館が制作・設置したワークシートは、誰もが楽しめ、展示内容の理解度を高める効果があり、満足度向上につながった。さらに、メディアでの広報活動や直前の大シルクロード展においてポスターやチラシ等で積極的に広報活動を行った。観覧者数は33,845人と目標(33,500人)を達成した。 ○「多賀城1300年」展は、多賀城創建1300年記念事業実行委員会との連携により、積極的な広報活動を実施したほか、多賀城市内の小中学生の無料招待により多くの観覧者を得た。県民にとって馴染みのある地名の「多賀城」を前面に出し、展示内容也多賀城そのものの理解度を向上させる内容としたことで、満足度の高い展示となった。観覧者数は13,000人と目標(12,000人)を達成した。	4	前年度の実績に基づいて改善点を検討し、展示内容を工夫して魅力を向上させることで、来館者の高い満足度が得られた。また、展示への興味関心を引き起こす関連企画の実施や、積極的な広報活動の実施により、いずれの特別展においても観覧者数が目標を達成したことは高く評価できる。
	企画	④		魅力的な巡回展を誘致・開催し、多様な世代の来館を推進します。	○今年度は、「世界遺産 大シルクロード展」と「和食」の2つの巡回展開催を実現した。令和7年度についても、「QuizKnockと巡る江戸東京博物館展」を春季に開催予定であり、さらに地元マスコミとの共同で特別展「世界遺産 縄文」を企画しており、夏季開催に向けて準備を進めている。なお、この共同企画展は、当館開催後、京都、群馬に巡回予定である。令和8年度以降についても、引き続き、地元マスコミ等の提案や共同企画による大型巡回展について、積極的に誘致に向けた働きかけを行っている。	4	今年度は巡回展2件を開催した。来年度は巡回展1件を誘致するとともに、地元マスコミとの共同企画展1件を企画制作し、開催に向けた準備を進めることができた。今後も魅力ある巡回展を積極的に誘致し、幅広い世代の利用促進に繋げていく必要がある。

2 教育普及

コメント ○ 教育普及事業の参加機会の拡充に取り組み、積極的な広報活動を展開して、県内の広い地域から参加者を集めることができた。 ○ こども歴史館や図書情報室では、新規企画や魅力的な企画を随時展開し、展示室以外の利用促進を図ることができた。 ○ 多賀城創建1300年記念事業で導入した、外国人や障害者も含めたあらゆる人々が利用できる歴史体験機器を活用した体験プログラムを、新たに実施することができた。 ○ 学校団体向け事後アンケートによりニーズの把握に努め、効率的に館内を利用できるよう環境整備することができた。							
---	--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点 目標 取組	前期達成目標	実 績	委員 会の 評価	推進委員会の意見
(1) 参加しなくなる多様 で親しみやすい教 育普及事業を目指 します。	企 画	⑤	○	利用者のニーズや興味関心を捉え、参加しなくなる講座・体験教室・体験イベントを実施し、こども歴史館や図書情報室を充実します。	○各種講座では、これまで好評を得た内容を継続するとともに、新たな調査成果や特別展と連携したテーマを設定するなどして、内容の充実を図った。 ○体験教室では「型紙づくり」「藍染め」といった新規のコンテンツを追加し、利用者のニーズと興味関心を捉えられるよう努めた。また、体験イベントも含めて広報活動を見直し、特に、新規の参加者獲得のため、県内全域の学校を対象に電子媒体を利用した広報活動を継続して実施した。 ○外国人や障害者を含むあらゆる人が利用できる体験コンテンツとして「VRミュージアム体験会」を実施し、また、多賀城跡巡りでは、多言語対応したナビゲーションアプリ「歴なび多賀城」を活用することで、多様な参加者の獲得に向けた取組みを実施した。 ○こども歴史館では、新規の常設体験コンテンツとして「古代衣装着用体験」及び「VRミュージアム体験」を追加した。 ○こども歴史館や図書情報室では、特別展関連企画を随時実施するなどして、利用促進を図った。	3	新規の参加者獲得のため、県内全域の学校を対象とした広報活動を行い、広い地域からの参加がみられるなど一定の効果が認められた。利用者のニーズを興味関心を捉えるために、新規コンテンツの追加のみならず、既存コンテンツのさらなる充実を図る必要がある。
(2) 学校が博物館を効果的に活用できる環境を目指します。	企 画 管 理 情 サ	⑥		ICTを活用した資料の紹介など学習支援を充実し、学校が利用しやすい環境を整備します。	【企画部企画班】 ○多賀城出土資料のデジタルデータの公開及び活用を目的として、こども歴史館において「VRミュージアム」を新たに設置した。 ○利用の少ない中学生向けに、歴史の地域学習授業と連携した学習シートの開発を進めた。 【管理部情報サービス班】 ○団体向け事後アンケートにより県外の修学旅行団体と県内の校外学習利用のそれぞれのニーズの把握に努めた。また年度の途中からは、学校の博物館での学びの実態を把握できるアンケート項目を増やし、電子申請サービスを活用して実施した。	3	○ 学習支援の強化について、学校側の期待も大きいことから、学校団体が活用しやすいコンテンツの開発及び情報の発信を意識して、今後も継続利用の促進に向け取り組み、一層の充実を図る必要がある。 ○ 学校団体にとってより利用しやすい運営をこれからも行い、更には次年度より活用予定のタブレット端末の効果的な活用方法についても、検討が必要である。

3 調査・研究

コメント ○ 調査研究事業は、博物館活動の基盤という意識を館員で共有しながら、県民の文化向上を目指した事業を推進するよう努めた。そのような中、調査研究の予算が逼迫する状況に鑑み、外部研究との連携や外部予算の獲得を進めた。 ○ 調査研究事業は博物館活動や県民に対し、展示及び各種講座等とおしてその成果や情報が還元されてこそ事業として完結するものであることから、連携や資金獲得それ自体が「目的化」しないよう注意を払いながら事業を推進した。							
--	--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点 目標 取組	前期達成目標	実 績	委員 会の 評価	推進委員会の意見
(1) 宮城・東北地方の歴史・文化等に関する調査研究を積極的に推進し、その成果を広く公開します。	学 芸	⑦	◎	研究テーマや目的を明確化し、成果を積極的に公開します。	○各分野において、年度当初に設定した研究テーマや目的に沿って、限られた予算内で調査研究を鋭意進めた。また、その成果の一部は常設展示(テーマ展示等)や特別展示等で公開されており、研究紀要及びれきはく講座等でも県民に広く還元するなど、業務は概ね順調に進行した。	3	調査研究事業費が減少する中、成果の先細りを招かないよう、より一層の効率化や合理化を図りながら業務に当たった。
(2) 調査研究事業のための必要な予算の充実を目指します。	学 芸	⑧		科学研究費や国庫補助金等の獲得により外部予算の導入を図ります。	○科研費3件、他の地方公共団体等の事業推進協力に由来する調査費4件を獲得するなど、業務は概ね順調に進行した。	4	当初計画に従い概ね順調に外部予算が導入されており、積極的な外部との連携協力及び調査研究の進捗が認められた。

4 資料の収集と保管・活用

コメント ○ 文化財を未来へ確実に受け渡す責務を果たすべく、資料受納、収蔵品管理、収蔵環境管理、資料出納、情報公開など多岐にわたる業務を担っており、事業は概ね適正に推進した。 ○ 浮島収蔵庫の老朽化対応、同収蔵庫資料整理やデータベース充実など喫緊の課題対応について、今年度はその準備作業の一環として、整備に向けた資料総数の把握と業務量の積算を進めるとともに、データベース化対象資料の確認を行った。						
--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点目標 取組	前期達成目標	実 績	委員 会 の 評価	推進委員会の意見
(1) 宮城・東北地方の歴史・文化等に関わる資料を系統的に収集し、その積極的活用を図ります。	学芸	⑨	◎	研究分野ごとの資料収集方針に基づき、計画的な資料収集を行います。	○各研究分野においては資料収集方針に基づき計画的かつ積極的に情報収集を進め、寄贈資料1件受納したほか、文化財課より資料137件の移管を完了した。また、各分野において、今後の寄贈及び寄託を見越して、所有者との連絡連携を続けており、業務は概ね順調に進行した。 ○今年度は事前調査・準備をさらに深める必要があることから、美術品等取得基金を用いた資料購入は見送った。しかし、各分野において、引き続き所有者との連絡連携を進めており、業務は概ね順調に進行した。	3	資料収集は相手があって成り立つものであり、数値の多寡のみで評価するものではないが、館の資料収集方針に基づき概ね適正かつ円滑な運営が認められた。
	学芸	⑩		実物資料はもとより画像等の二次資料を含めた博物館資料等に適切に対応します。	○二次資料について収集活動を進め、約1,700件の登録・配架作業を完了しており、業務は概ね順調に進行した。	3	当初計画に則った事業運営を行っており、着実な進展が認められた。
(2) 収集した資料をその特質に応じて保管管理するとともにデジタルアーカイブ化を推進します。	学芸管理	⑪		収蔵環境を整備し、より安定的な資料保全を図ります。	【学芸部学芸班】 ○毎月の保存環境調査及び上半期空気質等保存環境調査(委託業務)等の実施により収蔵環境を精査して保存管理上の諸問題の改善に向けた検討を進め、浮島収蔵庫にあっては害獣及び虫菌害など頻発する危険因子除去等の改善計画を実施するなど、業務は概ね順調に進行した。 【管理部管理班】 ○収蔵環境の改善を目的とした浮島収蔵庫屋上防水工事について、予定通り工事を実施し、各関係機関と調整を図りながら計画的に進めることができた。	3	○ 浮島収蔵庫の老朽化や害獣被害等が発生し、従前に増して資料の保存管理は困難の度合いを高めているものの、計画的かつ合理的な対応を鋭意行い資料保全が図られた。 ○ 当初計画に基づき確実に工事を実施しており、安全な資料保全の環境整備を図った。
	学芸情サ	⑫	○	収蔵資料のデジタルアーカイブをさらに充実させ、インターネット等を活用して情報公開を推進します。	【学芸部学芸班】 ○情報システム更新と連動しつつ、収蔵資料及び図書資料約3,500点の整理するなど、データベース公開に向けた作業を計画的に推進するなど、諸準備を着実に進めており、業務は概ね順調に進行した。 【管理部情報サービス班】 ○令和7年3月にホームページリニューアルを行い、デジタルアーカイブ公開に向けて使いやすい利用フォームが整った。	3	○ 当初計画に則った事業運営を行っており、着実な進展が認められた。 ○ 3月公開のホームページ更新に向け、担当者を中心にして活発な意見交換を行い、その情報を館内で共有しながら、より利用しやすいホームページを目指して作業を進めた。完成後にはデジタルアーカイブの公開に向けた、データの蓄積作業も着実に進めた。

5 情報の発信

コメント ○ SNS活用により情報発信することで、フォロワー数が増加し、幅広い世代への情報発信を行うことができた。 ○ 電子申請システムの活用が定着された。→今後は新電子申請システムへのスムーズな移行に努める。 ○ 多賀城創建1300年記念事業を契機に、多賀城市とは連携して文化観光情報を更に発信することができた。						
--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点目標 取組	前期達成目標	実 績	委員 会 の 評価	推進委員会の意見
(1) 情報リテラシーに十分配慮した上で、ICTを活用して速やかで効果的、魅力的な情報を発信します。	情サ	⑬	◎	幅広い世代の来館者の増加につながるよう、実行力のある効果的な広報を展開します。	○SNS現在はX(旧Twitter)を中心としてFacebookとともに情報発信ツールとして、基本情報の発信、特別展示期間における情報発信には特に力を入れて、細やかな情報を発信する様に努めた。年度初めからフォロワー数が約900件増加していることは一定の成果である。 ○学校向け利用団体案内内容をより使いやすいものとするため、アップデートを行った。	3	SNSを中心とした情報発信について、より効果的な活用として、展示資料紹介を行うなど、基本情報に加えて変化のある情報発信方法を行った。今後も幅広い世代に向けた広報のあり方について工夫する必要がある。
	情サ	⑭		スマートフォンやタブレット等の情報端末の普及・進化に合わせて、最適な情報サービスを提供します。	○催事等の受付について電子申請サービスを導入してから約3年となり、当初はインターネットやスマートフォンが苦手で、申請自体が上手でできずに電話での問い合わせが多数寄せられていたが、今年度は問い合わせ件数も殆ど無くなり、大分利用の定着が図られてきた。 ○情報システム用端末導入にあたり、来館者貸出用タブレットを選定し活用に向けた準備を整えることができた。	3	みやぎ電子サービスの活用も定着した。2月に始まった新電子サービスの丁寧な説明とともに、より使いやすいサービスへのスムーズな移行が求められる。また、新年度から活用できるように貸出用タブレット端末についても利用のルールなど運用面での検討が必要である。
(2) 地域に根ざしたコミュニケーションに努めます。	情サ	⑮		来館者のニーズを「距離」「関連性」「知名度」の指標で分析し、有益な情報を提供します。	○アンケート回収率を上げるべく、従来の紙アンケートに加えてQRコードによる電子申請フォームへの誘導により、手軽にアンケート回答できる環境を整えた。今年度からは次回特別展の情報を掲載した名刺判のカード裏面に、アンケートQRコードを掲載した案内を作成し配布した。 ○Googleの機能を活用し、ユーザー行動データにより、ホームページ訪問者がウェブサイト内でどの情報に注目しているかの分析を進めた結果、特別展情報や展示品リストなどへのアクセスが多い傾向が確認できた。	3	アンケート回収数を増やすための方策については今後も検討が必要である。またホームページの検索件数を含め、データの解析を進めることで、来館者増に向けた具体的な取組を見出すことが求められる。
	情サ	⑯	○	地域の魅力・催事などの把握に努め、連携を図っていきます。	○特別展情報を中心として多賀城市及び近隣市町村他館向けにポスター・チラシの掲出・配架を依頼した。 ○多賀城市においては継続して市報に博物館情報の欄を設け催事の情報を発信する等強い連携となった。 ○多賀城創建1300年記念事業実行委員会からの依頼を受け、陸奥国印レプリカの展示場所や多賀城市マンホールカード配布場所としての協力を行った。	4	多賀城創建1300年記念事業により、多賀城市とは例年以上に連携を深めた。今後は更に強い結びつきで相互の情報共有・情報発信する事で連携が求められる。

6 地域連携・県民参加

コメント ○ 多賀城創建1300年記念事業と関連した取り組みを多賀城市と連携して実施することができた。 ○ 博物館ボランティアの参加人数及び活動内容を積極的に増やし、ボランティア活動に積極的な支援を行った。また、広報活動等に継続して取り組み、博物館活動への参加の場を県民に広く提供した。 ○ 博物館友の会の自立運営が進められるよう、必要な支援を行ってきた。友の会活動が活発に行われるよう情報提供での支援を進める。 ○ キャンパスメンバーズの制度周知を継続して行い、新たなメンバー校(学部)獲得に繋がった。						
--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点 目標 取組	前期達成目標	実 績	委員 会の 評価	推進委員会の意見
(1) 近隣市町や関連団体、学校等と連携・協力し、文化観光その他の活動を回り地域の活力向上に取り組みます。	情 サ	⑰	◎	当館や多賀城政庁跡を起点とする、地域の文化観光促進に向けて多賀城市や近隣市町及び関係団体との連携を強化します。	○特別展大シルクロード展では、多賀城市及び関係団体との連携により、おもてなしブース及びキッチンカー事業等を行ったことで、歴代2番目の来館者数に対しても満足度を高めることができた。 ○近隣の観光情報も含めたパンフレット配架等による情報発信については、地域情報専用のパンフレットスタンドやサイネージの活用で実施している。多賀城創建1300年記念事業関連で、多賀城市と多岐にわたり強い連携となった。	4	多賀城創建1300年記念事業により様々な取り組みを行い、来館者の満足度を高める取り組みができた。今後も連携協力のパイプを切らさぬように、次年度に向けて引き継いでいく必要がある。
	企 画	⑱		博物館ボランティア業務を円滑化し、地域の活力向上を図ります。	○今野家住宅や体験イベントの運営補助などで、博物館ボランティアの参加人数や活動内容を積極的に増やした。 ○博物館活動への参加の場を広く県民に提供するために、博物館ボランティア募集と継続支援に積極的に取り組んだ。	4	ボランティア活動について、活動の充実を図りながら円滑に進めることができた。さらに県民が積極的に参加できるような体制・運営の整備に継続的に取り組む必要がある。
	企 画 学 芸 情 サ	⑲		「博物館友の会」の活動に対し支援をしながら、自立した体制整備に向けて助言、提案をします。	【企画部企画班】 ○「博物館友の会」主催の催事に講師を派遣し、活動の支援に努めた。 【管理部情報サービス班】 ○友の会設立当初から比べれば、友の会運営は自立運営されていると考えられるが、可能な限り連絡調整業務でサポートしている。今年度は行事にかかる保険手続き書類作成や保険料振込みなど、実務業務の移行を少しずつ進めた。	3	○ 自立運営に向けて各種企画立案・運営面での支援を行うとともに、実務業務の移行など自立した体制整備に向けた取組みを継続的に進める必要がある。 ○ 活発な友の会活動に繋がるような情報提供など、できる範囲でのサポートを続ける必要がある。
	情 サ	⑳		大学等学校単位のキャンパスメンバーズの拡大・利用促進を図り若い世代の獲得に努め、各種博物館活動への参加を誘引します。	○特別展開催前には、メンバー校あてに定期的にチラシ、ポスターの配布をして広報周知に努めた。 また、次年度の特別展情報を、展示内容に関係すると思われる学科・学部を持つ大学や専門学校等へ向け情報提供し、新規加入案内の通知を行った。	3	新たに登録した団体もあり今後も継続して新規加入に向けた情報提供など、積極的な勧誘活動を進める必要がある。

7 危機管理

コメント ○ 円滑な工事執行と計画的な整備により、来館者と資料の安全が確保された。 ○ 今までの訓練等の反省点を踏まえ、非常時に備えたマニュアルを見直し、より現状に沿った体制づくりが図られた。						
--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点 目標 取組	前期達成目標	実 績	委員 会の 評価	推進委員会の意見
(1) 来館者と貴重な資料の安全が確保・維持される環境づくりに取り組みます。	管 理	㉑	○	施設・設備の適切な維持修繕に努めます。	○土木部、文化財課及び施工業者と連絡を密にし、館内への情報共有を図り、円滑に工事執行した。 ○2件の工事について着工し、館運営に支障をきたさないよう各関係機関と調整を図りながら円滑に工事を進めることができた。	3	各種工事を進めるにあたって、管理班、専門分野と協働して資料の保全等に取り組んだ。
	管 理	㉒		様々な災害に対応する適切な物資の確保に努めます。	○来年度の非常用発電機の工事へ向け設備課及び文化財課等と調整し、円滑な工事施工に向けての準備調整を図った。 ○発災直後博物館に必要な備蓄品について品目の選定を行い、備蓄を開始した。	3	計画的な設備更新とともに独自の備蓄整備に取り組んだ。
(2) 感染症を含む災害等の緊急事態が発生したときには、被害を最小限に抑え、事業の継続や復旧が図られる体制を整えます。	管 理	㉓		避難訓練等を適宜実施し、対応マニュアルをブラッシュアップします。	○施設、設備等については定期的に安全点検を行い、予算の範囲内で優先度を定め、修繕等の措置を講じた。 ○館で作成した「地震・津波の基礎知識」について、エントランスのデジタルサイネージに掲載することでより広く来館者へ周知することができた。 ○防災、火災避難訓練を実施し、訓練の反省点をまとめ、来年度の実施要領等を見直した。	4	マニュアルや訓練内容等について、反省点をまとめ、博物館の現状に沿った内容に修正し、発災時に各自が適切な対応ができるよう改善した。
	全	㉔	◎	災害に応じた適切な緊急点検を実施し、事業の中断を最小化します。	【管理部管理班】 ○防災訓練の反省点を踏まえ、職員の動きの他に加えて警備・保守業者等委託業者の発災直後の動きを再確認し、より現状に沿った体制に修正した。	3	行動マニュアルや機器操作など、現場スタッフの意見を踏まえ、非常災害時の体制づくりに取り組んだ。

8 変化する社会への対応

コメント ○ 宮城県博物館等連絡協議会の会長館・事務局館として、限られた予算の有効活用に配慮するとともに、協議会の活性化に積極的に取り組んだ。 ○ 研修等の機会を積極的に利用し、博物館学研究や博物館を取り巻く新たな課題等への理解と対応に積極的に取り組んだ。 ○ 後進育成や社会貢献といった重要な諸課題を博物館活動の中に明確に位置付けており、さらなる成果を期待する。							
---	--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点 目標 取組	前期達成目標	実 績	委員 会の 評価	推進委員会の意見
(1) 複雑化・多様化する ニーズや自然災害 等の新たな課題に 対して、東日本大震 災で得た貴重な知 見を活かし、博物館 職員の技術向上や 県内外の博物館施 設等の連携等の手 段により、協働して 諸課題への対応の 検討を進めます。	学芸企画管理	㉕	◎	宮城県博物館等連絡協議会の会長館・事務局として県内博物館との連携を深め、会員館の要望を的確に捉えながら協議会活動の充実を図ります。	【学芸部学芸班】 ○22館29名の参加を得た令和6年度第1回研修会、24館29名の参加を得た第2回研修会、冊子「宮城県の博物館2024」刊行及び会員館アンケートの実施等により宮城県博物館等連絡協議会の会員間の連携が強化され、活動の充実が図られるなど、業務は概ね順調に進行した。 【管理部管理班】 ○宮城県博物館等連絡協議会の活動内容を把握し、当該団体に対して、事務局運営や会計など適切な事務処理ができるよう支援した。	4	宮城県博物館等連絡協議会では研修会の質的充実を目指し鋭意活動を進め、その成果が顕在化しつつあり、当該協議会活動の充実が図られた。
	学芸	㉖		外部研修の受講等を通じて最新の成果を積極的に吸収し教育普及、博物館運営等、博物館学的な研究を推進します。	○リモート受講を含め計10件の外部研修に参加し、最新の博物館学研究などの成果を獲得するとともに、その成果を回覧及びデータ格納等により非受講職員と共有することで館全体での資質向上を行うなど、業務は概ね順調に進行した。	4	予算の制約が厳しさを増すなか外部研修に参加し、進展著しい博物館学の研究成果を積極的に吸収するとともに、その成果を受講者のみならず組織として共有するプラットフォームを構築し、館全体で研究を進めた。
	学芸情サ	㉗		博物館実習等による後進教育、キャリア教育等による学校教育対応を進め、博物館の存在価値を高めます。	【学芸部学芸班】 ○博物館実習13名、東北大学連携大学院「文化財科学」1名、5大学の博物館学教育等の受入対応を行い後進育成に貢献したほか、中学生総合学習のうち職場体験学習及び他自治体事業への協力など計16件の社会貢献を果たしているなど、業務は概ね順調に進行した。 【管理部情報サービス班】 ○近隣の中学校からの総合的な学習の時間「地域学習」を2中学校へ向けて行い、職場体験学習は2日間実施を2回計2校の生徒の受入れを行い、博物館の役割や仕事内容の理解を目的とした体験プログラムを提供できた。	3	○ 他館と比較しても非常に充実したカリキュラムにより後進育成及び社会貢献等を積極的に進めた。 ○ 職場体験学習により中学生が将来の進路を考える上での、貴重な体験研修を提供できた。
	学芸	㉘		博物館に求められる社会的課題への理解を深めます。また、繰り返される自然災害では必要に応じ、県文化財課等と連携して専門的助言を行います。	○社会的包摂など博物館を取り巻く新たな課題に対して情報収集及び調査研究などを行い、その成果に基づきユニバーサル・デザインに配慮した印刷物の刊行などを進めたり、その意義や重要性を学芸・企画職員等で共有して気運醸成を図ったりするなど課題への理解及び実践を実施しており、業務は概ね順調に進行した。 ○自然災害対応については、本県では顕著な自然災害発生していないことから具体的な取組は行っていない。ただし、広く国内に目を向けると令和6年能登半島地震や線状降水帯による集中豪雨等への対応が課題となっていることから、今後起こり得る災害への対応について引き続き具体的な検討を進めた。	3	博物館における社会的包摂やいわゆるユニバーサル・ミュージアムについて、情報収集を積極的に行うとともに、その応用と実践に取り組んだ。 令和6年能登半島地震文化財レスキュー事業の情報を積極的に収集するなど、繰り返し襲う自然災害に対する備えを進めた。
総合評価	○ 「常設展示・企画展示」では、常設展示等更新ワーキンググループで中期更新に向けた具体の取組みを進めた。また、特別展では、宮城・東北地方の歴史と文化に関わる魅力的な展示と、大規模巡回展の実施により、満足度の高い展示を実施することができた。特に、前年度の改善点を踏まえ、展示への興味関心を引き起こす関連企画や積極的な広報活動の実施により、観覧者数で目標を達成した。 ○ 「教育普及」では、積極的な広報活動を展開して県内の広い地域から参加者を集めることができた。また、新規企画の実施や体験型コンテンツの導入により、展示室以外の利用促進を図ることができた。さらに学校団体向けに学習シートの活用や学年に応じた利用プログラム、具体的な見学プランを提案するなど、効率的に館内を利用できるよう支援することで、当館の魅力を発信することができた。 ○ 「調査・研究」では、その成果の充実を図ることはもとより、外部資金導入など現実と折り合いを付けながら鋭意活動を進めた。 ○ 「資料の収集と保管・活用」では、老朽化・狭隘化する施設の維持管理を進めながら、可能な限り良好な保管環境が実現するよう活動を続けた。 ○ 「情報の発信」では、より幅広い世代に向けて情報発信することに心掛け、博物館の魅力を伝えられるように努めた。 ○ 「地域連携・県民参加」では、多賀城創建1300年記念事業と関連した取り組みを、多賀城市及び関係団体と連携して推進できた。 ○ 「危機管理」では、円滑な工事執行と計画的な整備により、来館者と資料の安全が確保された。また、非常時に備えたマニュアルを加除し、総合防災訓練などの実施を通じて、より現状に沿った体制作りを図ることができた。 ○ 「変化する社会への対応」では、新たな課題への対応などが依然として手探りの状況のなか、多くの情報を収集しながら、当館として探るべき博物館活動のあり方の検討を進めた。					3	○ 今年度の実績及び成果を踏まえ「ほぼ達成されている」と評価した。 ○ 本館の設置理念を着実に具現化するとともに、社会の変化や成熟に対応しながら、個別取組を丁寧に進め、本館のさらなる利用促進に繋げたい。

◎:前期中長期重点目標 ○:令和6年度重点目標(取組)
